



## 福祉・防災マップづくりから、 支え合える地域へ

香美町では、地域の中で災害時に一人で避難できない人や不安のある人(要援護者)を住民同士が気づき、日常の見守りにも役立てるための「福祉・防災マップ」を作成している。平成20年度に開始され、すでに120ある全ての集落でマップが完成。現在は年1回、区長と民生委員、福祉委員等による福祉委員会を中心に、新たな要援護者の共有や点検を進めている。

町社協では、各集落に出向き、地域住民が考え、話し合うための投げかけを行うなど、マップづくりを通じた地域福祉活動をサポートしている。

### 福祉・防災マップでつながりを「見える化」

平成25年度は、各要援護者を避難時に支援する「地域支援者」の登録を進めた。本人の同意を得て決められる地域支援者は、普段の生活の中でも気にかけている存在になることが期待されている。また、「見守り活動モデル集落」を選定し、要援護者の避難経路や危険箇所をチェックするだけでなく、その人が日頃つながりのある人、訪れる場所、参加している活動などの状況も書き込み、防災訓練にも生かせるようつながりを「見える化」している。



気になる家が点在化しているね…。いざというときの手段を考えないと！

### マップづくりから、普段の地域の支え合いへ

「〇〇さん、あれから何か変化ない?」「最近サロンで見ないから、ちょっと訪問してきたわ」。福祉委員会ではこのような会話が交わされる。今まで一人の住民として気になっていたことも、マップづくりを通してみんなで考えることで、具体的な見守りや支え合いにつながっている。ある集落では、実際に水害が起こった際に、住民同士の素早い対応と避難支援により、橋の陥落による集落の孤立をまぬがれた。福祉委員会で要援護者の情報を共有し、対応策を話し合っていたおかげで、早期対応に結びつくことができたのだ。

最近どう?さりげない声掛けが嬉しいね。



今後もみんなで地域のことを考えるプロセスを大切にしながら、住民自身の気づきや発見から見守り・支え合える関係を生み出すために、マップを生かした集落での福祉活動を展開していく。

### 取材を終えて

住民の生活範囲である集落ごとの取り組みを通じて、地域の課題を自分たちの問題として考えることにつながっています。人と人とのコミュニケーションによる、日頃から声を掛けあえるあったかい地域づくりの展開に、これからも注目したいと思います。

### 会長から

香美町社会福祉協議会 会長 田中 秀春

香美町では、少子高齢化と過疎化が急速に進み、人と人とのつながり、心と心のつながりが希薄になるなど、地域コミュニティが大きく変化しています。

社協の使命の地域福祉の推進では、「当事者・住民主体を原動力とした福祉コミュニティづくり」を目指し、「福祉・防災マップ」の整備を通して、災害時だけでなく「平常時の見守り活動の強化」と「防災・減災力の向上」に向けて取り組んでいきます。地域住民の参加・参画による福祉活動の推進に努め、住民主体のまちづくりを一層推進すると同時に、基本理念である「ささえあい安心して暮らせるまちづくり」を目指して参ります。

